

きずな

第28号

平成23年12月1日

【12月の行事予定】

- 12月 8日 雑学大学
- 12月14日 まちづくり未来塾
「そば打ち体験教室」
- 12月17日 子ども村冬の星座観測会
- 12月23日 まちサポまつり



12月23日

まちサポまつり開催



大網白里まちづくりサポートセンターにて
平成23年12月23日(金)
10:00~14:00

来る12月23日、一年の感謝を込めてまちサポ祭りを開催します。毎年恒例のお餅つきでは、昨年好評だった地元のお雑煮と、おしるこが味わえます。(一食、150円) 会員団体さんの活動紹介を行ったり、フリーマーケットも行います。

また、昨年まちみがきの講座から誕生した、「つまみぐいウオウク」が、今年も開催されます。昔なじみの商店街を元気付けようと商店街を訪ね歩きます。もしかしたら、貴方の知らない大網白里町を発見する事が出来るかもしれませんね。

被災地支援報告

まちサポでは、六月より定期的に石巻市の避難所、湊小を訪問し交流してきました。



四度目の石巻訪問です。今迄お邪魔していた湊小の避難所は十月に閉鎖され、全員が仮設住宅に移りましたので、湊小で知り合った方の仮設住宅を二カ所訪ねました。どちらも住宅街の児童公園の中に立った仮設住宅です。

一つ目の訪問先、あけぼの南団地は8世帯、7月から生活しているのですが、既存の自治会に入ったために、みんなが集まることがあまりなくなりました。訪問がコミュニティの世帯が多く、自転車で買い物の行くのですが、重い物や大きい物の買い物が不便だと言うこと、追い炊きの出来ないお風呂で光熱費がすごくかかり、未だに定職がみつからない不安定な日を過ごして、今後の生活費が不安だと話してくださいました。

今一番食べたいものは？の質問に、みんなからは、果物が食べたいとの答えが返ってきました。大網に帰ってすぐ、自宅になった柿を送って欲しいという申し出があり、宅急便で送り「甘くておいしかった」との喜びの電話をいただきました。

二つ目訪問の仮設は、子育て世代の多く住むところで、悩みも子ども達の事が中心でした。以前の学校の車で送り迎えをしている方も多く、仕事に出られるかどうか、子どもと離れたくない、離れるのが怖いと話していました。「私たちは何も悪くないのに」という言葉に象徴されるように、お母さん自身が癒されていないことに気づき、お母さんの心を軽くしてあげたいと思いました。そして、クリスマス会をやりたいというお母さんの思いをかなえるために、クリスマス会を開く準備をして、また訪問することを約束し帰路につきましました。クリスマス会の模様は次号で報告します。



産業祭と福祉ねっとまつりに出店

秋はお祭りシーズン。どこでも、お祭りの予定が目白押し。まちサポでも、お祭りの予定がいっぱいです。

まずは、大網白里町の産業祭に出店。十月二十三日、雨天のため一日ずれての開催となりました。今年はずり雨が降り続いた雨のせいで、ぬかるみの中の準備。開催時間には、ブルーシートを敷かなくてはならないほどの足下の悪さです。まちサポのブースは端っこ、ブルーシートの道も敷いてもらえませんでした。最悪の場所です。案の定、お客さんはあまり来ませんでした。開催する場所のこと、もう少し考えて欲しいですね。アリーナなら駐車場とか、雨でも影響のないところに。来年の開催場所に期待したいところです。

十一月は、いずみの里で行われた、福祉ねっとまつりに出店しました。こちらは、アットホームな暖かいお祭りでしたが、宣伝が足らなくて、来場者が少なかったのが残念でした。ワーナーホームの理事長寺田一郎さんの講話に、多くの方が感動し、そしてたくさんの方と交流でき、楽しい一日でした。



読売新聞一面（平成23年12月5日掲載）に『少し冒険、危機回避養う』の文字・・・「学び・遊ぶ・生きる」の文章は、東京世田谷区にある「羽根木プレーパーク」が紹介されていました。



記事の内容を要約すると、『子どもたちはノコギリで木を切り、火をおこし、木に登って遊ぶ。ちょっと手を切ったり、擦り傷をつくることもあるが、そこはNPの「プレーリーダー」と地域の大人が目配りしている。「見守るが、自分で。」それが基本だ。』

これまで、文科省は、「体験を重視し、生きる力を育てる」と唱えながらも、保護者の声などをまともに受け、危険なことは禁止するなどして、避けてきたのが現実です。調査すると、小学6年生の2割は昆虫を捕まえた経験がなく、4割はキャンプをしたことがほとんどない。外で遊ばない子が増え、転んだときに手をつけず鼻の骨を折る、頭に飛んできたボールをよけられない、ようやく文科省も動き出すようです。3月の震災後、文科省での有識者会議で、学校が本当の意味で、子どもたちの生きる力をつける場となっていないことに、やっと気づいたようです。』

「プレーパーク」の存在が今後大きな意味を持つてくるのではないのでしょうか？

子どものみならず、大人たちも見守る「プレーリーダー」の役目を担いながら、かって、子ども時代に経験してこなかったことを子どもたちと一緒に体験すべきでは？？大人も「生きる力」を培ってこずに大人になんてなってしまったことに気づいていないのかもしれない・・・

まずは「生きる」こと！その力をつけること！

大網でも、『エコパーク大網白里子ども村』では、ノコギリや金槌を使ったり木に登ったり、様々な自然体験ができる場所となっています（みずほ台 相羽礼子）

エコパーク大網白里子ども村の活動から

パン生地をこね、竹の棒に巻き付け、おき火で焼く。楽しげな子ども達の、元気な声が広がります。曇り空で、思うように発酵が進ま

10月29日 まきまきパン作り

ず、お昼の時間がずれてしまったので、焼きたてのパンをおいしそうにほおばりました。



11月26日 第2回青空パーカッション

日さんの歌声のコーラス演奏会になりました。すてきな演奏会になりました。自分で作ったカズーやギロの音、同じ竹製の音になったから不思議ですね。

竹で楽器を作り、プロの音楽家と自然の音を楽しみました。昨年引き続き二回目になります。子ども達の楽しそうな演奏と、相曽晴



郷土の歴史-5

古山 豊 (郷土史研究会会長)

「元禄の巨大地震と大津波」(その5)

3月11日に発生した「東日本大震災」で、県内での人的被害が最も大きかったのが旭市である。13人が津波の犠牲となり2人が行方不明である。この地震による県内の死・不明者は20人という多数に昇っている。

88年前に発生した大正地震(関東大震災)以来の大きな地震災害となった。国土地理院や大学・専門機関の合同調査による津波浸水地図を観ると、旧飯岡町沿岸では津波が内陸1.5から2キロメートルほど浸水していることが分かる。県内津波最高値は旭市の7.6メートルという。

元禄地震の場合、九十九里浜北部(山武市の木戸川以北)の津波被害は南部に比べて少なかった。筆者の長年に亘る現地調査でも津波供養碑は認められず、被害を記録した古文書等もわずかである。以下、少ない資料から2・3の例を挙げてみたいと思う。

『銚子木国会史』という本に「元禄十六年十一月廿二日八ッ時 津浪は君ヶ濱より大池に水入る。君ヶ濱田畑へ砂押し掛け麦も一圓無之 山林の松の木七百本寝返り 又は折木にて池端松の本より二三尺(60~90cm)上へ浪上がりたる様子にて藻かかり居候(以下略)」とある。また『田中玄蕃先代集』にも沿岸の納屋五軒が波に流されたという簡単な記載がある程度である。しかし、君ヶ浜の津波浸入状況から、被害は少なくなかったことが理解できる。

12月になると思い出すのが24年前の「千葉県東方沖地震」(写真)である。12月17日午前11時8分に発生した地震である。筆者は当時県立茂原高等学校に勤務しており、2学期末テストの答案を返却していた。その時いきなり突き上げる大きな揺れがあり、教室は一時パニック状態となった。全校生徒約千名をグラウンドに集め教頭が注意点を延べ下校となった。夕方帰宅すると拙宅の玄関屋根や屋根の嶺部分の瓦は落ちひどい状態であった。直下型地震で震源地は一宮沖10km、海底56kmで、県内一帯震度5、死者2人であった。液状化による被害が甚大でブルーシートの屋根が半年以上各地でつぶれた。



芝山町菱田の町道 (80年に亘って道路が陥没)

塚・津波代(つなしろ)様↓大網白里町・等覚寺の五
力所を廻り、本興寺では本堂の中の大位牌も見せて
いただきました。今回訪ねて、普段何気なく通って
いる所に建てられていて、本当に身近な問題なので
と改めて認識しました。



東日本大震災の後、被災地に何度か出向くようになる
と、各所に先人の残した津波の記録のあることに気づき
ました。そこで、先人の教えを知ることで回避できる災
害こともあるのでは?と考えました。
過日郷土史研究会会長の古山豊先生
にお願ひして、この地に残る津波の記
録を案内していただきました。茂原・
鷲山寺↓長生村・本興寺↓白子・無縁

まちづくり未来塾 地元を学ぼう! 元禄津波史跡探訪 十一月十四日



大網ひまわりネット 沼津避難タワー視察

町ぐるみで津波と取り組んでいる事例を勉
強しようと、静岡県沼津市に行つて来ました。
この町は以前から東海沖地震で警戒されてい
る地域なので、行政も住民も、東日本大震災
前より津波に対する意識の高い所です。
電信柱には、海抜○の表示、町のいたる
所に「地震だ!津波だ!すぐ避難」と書かれ
た避難経路の看板が立っています。建物には
外階段、護岸のさかき階段がつけ
られ、町の所々に避難タ
ワーが建てられ、どこに
いてもすぐに逃げられる
様に工夫されています。



オープンガーデン大網白里 園芸講座開催

オープンガーデン大網白里では、「まちづくりパワーアップ」の一環として、園芸講座を開きました。これは皆さんにお花に親しんでいただき、オープンガーデンに参加する方を増やそうと考えて行いました。

9月末にメンバーがそれぞれ庭で採れた種を持ち寄り種まきをしました。11月、芽が出たところで、第1回目の園芸講座「移植」を行いました。あまり根を傷めないように注意して移植作業の開始です。参加された方皆さん、手際よくあっという間に用意したポットがなくなり、移植できた苗をたくさん持ち帰りました。

2回目の講座は、寄せ植え体験教室です。パンジーやノースポール、ユニファアなど、7～8種類の花を寄せ植えしました。クリスマスバージョン、お正月バージョンなど、時間内に2～3鉢と寄せ植えを楽しんでいました。来年の春には、植え込んだ株も鉢からあふれるほどに大きくなり、見応えのある鉢が出来る事でしょう。



編集後記
今年を振り返ると、いろいろな事を考え、活動しました。来年は新しい活動に挑戦してみたいです。皆さんのおかげで、今年も楽しい時間を過ごしました。来年もよろしくお願いします。

交流サロン開催
「市民活動とまちづくり」地域づくり
牧野さんの講話

奇数月に行っている交流サロンの十一月は、NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事の牧野昌子さんの講話と市民活動する上での意見交換を行いました。

牧野さんは、ご自身が経験された事、現在の活動の事など、苦労話を混ぜながら、お話しくださいました。それから、九月に行った交流サロンの時に出ていたそれぞれの悩み事の解決策をお話しくださり、時間が足りないくらいでした。参加された方も、それぞれの悩みなど相談したり、情報交換したり、とてもいい交流が出来たと思えます。

いつも同じ顔での集まりですと、マンネリ化するのでは、時々他のところで活動している方にお越しいただくと、刺激を受けて気持ち引き締まる思いがします。

今回の交流サロンでは、牧野さんに新鮮な空気を入れていただき、参加された方々の、これからの活動に弾みが付き、良い活動に繋がることでしょう。



あみくん、さぽちゃんの 大網白里★あれこれ

先日、下ヶ傍示の古屋敷さんにお邪魔してきました。

江戸時代の古民家を利用したギャラリーです。芝生のお庭には彫刻の展示がされています。

この日は、白里の大矢織物さんが展示販売をしているとの事で訪ねてみました。すてきな織物と古民家の趣のコラボレーション、おしゃれな感じでした。一通り見学し、薪ストーブの赤い炎を見ながらコーヒーをいただき、大矢さんの織物のお話を伺いながら、楽しい時間を過ごしました。偶然友達のニットも展示されていました。伺った日は最終日という事で、もっとすてきな作品がたくさんあったのかなと残念に思いました。

でも、薪ストーブのぬくもりと、古民家の落ち着いた雰囲気心地よさ、どこか遠くに観光にでも行った気分になりました。

どなたでも気軽にご利用出来るそうです。

利用時間：午前9時～午後5時まで 休館日：毎週月曜日 ※アートギャラリー古屋敷・吉田さんの連絡先 (Tel 0475-72-1328)